

情報連絡員報告を中心とした

## 県内の中小企業動向

平成23年9月期

情報連絡員50名 回答数50名

### 全体概要

#### 前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は2から9に増加。「減少した」業種は7から1に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は11から10に減少。「減少した」業種は11から12に増加。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は3から2に減少。「悪化した」業種は14から15に増加。

#### 前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は4のまま変化なし。「減少した」業種は9から7に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は9から8に減少。「減少した」業種は17から16に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は2のまま変化なし。「悪化した」業種は26から24に減少。

#### 製造業

##### 漬物製造

日照不足や、台風の影響で農産物が大幅に減少し、浅漬原料が不足して影響が出ている。

【県内全域】

##### 豆腐製造

学校給食が始まり、徐々に売上が伸び始めてきた。各地でイベントを行い、スーパーに並んでいる豆腐と町店の豆腐の違いを一般消費者へ向けてアピールした。

【県内全域】

##### 牛乳小売

買い控えが続き、景況が悪化。

【県内全域】

##### 製材

震災復興の需要は見えない。

【県内全域】

##### 製材

南洋材は、一船あたり、3,000本の入港となる。ロシア材の入荷が関税率のUPで割高になり、需要が減る様子である。

【木更津】

##### 印刷

9月の売上高は、東日本大震災後の自粛・節約の影響や官公庁の予算の縮減による発注点数や発注数量の減少、さらには8月同様に稼働日数が少なく全く振るわない。需給ギャップの影響があり、安値攻勢からデフレ状態のまま。業界シンクタンクから業況回復が近県で一番遅いとの報告あり。

【県内全域】

#### 電気鍍金

鍍金種別によっては幾分売上高の上昇が見えてきたが、本格的な経済活動は未定。為替の動向で円高が続き、大手発注企業が海外に生産拠点を移動するとなるとますます景況は悪化する。

【県内全域】

##### 鉄工

足元の景気動向は震災影響を徐々に脱しつつあるものの、超円高が続く現状を懸念視（主に間接影響）する声が高まってきている。

【千葉】

##### 機械部品製造

円高、株安状況で、海外へ国内産業空洞化が懸念される。円高が続き、海外生産への移行を模索している状況、再不況到来の兆し。

【野田】

##### 機械部品製造

電力規制の影響により、生産量を確保することに苦慮。円高の影響もあり余り良い景況ではない。政府の早急な円高対策を求める。

【流山】

##### 機械部品製造

9月（上期）末として前月より動きは増えたものの、依然先行不透明で不安は解消されず、特に円高に対する不安材料は増している。

【柏】

廃業の企業があり、代替受注対応に追われている組合員あり。今後、転廃業は増えると思われる。

9月末という時期もあり、資金面での商工中金緊急対応の借入を活用が数社あり。

### ■採石

【県内全域】

9月は南本牧地区の埠頭建設でズリの需要があったが、10月上旬で終わる。東京都では23年度の港湾整備に前年度比10%増で対応すると言う。我々採石業界にとっては有難い話。

### ■非製造業

#### ■総合卸売

【千葉県・東京都】

【米穀卸】震災・原発事故影響が続き、米需要の減少にも係らず仕入価格上昇。販売価格への転嫁十分に出来ず、採算低下。

震災影響から、総じて前年に比べ景況の悪化を感じる企業・業種が多い。10月以降に公共費、原材料費の値上げもあり、収益性も悪化懸念。

#### ■食肉卸売

【千葉市他】

依然として、肉牛の価格が悪化している。

#### ■建築材料卸売

【県内全域】

今年度上期出荷は前年比110%で推移しているが先行き不透明なため、回復感は全くない。

セメント価格、値上徐々に浸透。7月から段階的に値上受け入れているが、メーカーの目標水準まで未達

のため、引き続き下期も値上の攻防が続く。

#### ■自動車解体業

【県内全域】

自動車解体業は、部品輸出やスクラップ相場が為替に影響されるため、円高が続く業況には悪影響が出てきている。

#### ■乾物卸売

【県内全域】

前年に比べて低調。震災の影響で、3月の彼岸需要減少の代わりに9月の彼岸需要が増えたようだ。

来る海苔生産期に向けて準備が始まった。放射能問題への対応について業界としての指針を策定し、各関係者と連携し万全を期すよう進めていく。

#### ■卸売

【茨原】

売上の上昇は依然として見込めず、中小販売店に販売低下がみられる。風評で物の売れ行きが低下、消費者の買い控えが目立つ。

#### ■小売

【柏】

消費者の購買意欲は依然低いが、秋冬物衣料品を中心に前年並みの売上となっている。震災の影響は殆どなくなったが、節電に始まった節約ムードは浸透しているようだ。

#### ■電気機器小売

【県内全域】

省エネの影響で、エアコンの省エネタイプへの買換えが目立つ。テレ

ビは予想通り売れない。

業界の動きは、量販も家電店も問屋も、ソーラーへシフトしている。

#### ■青果小売

【千葉市】

台風の影響が出てきている。商品の質が悪く、相場も高くなっている。

#### ■中古車仕入・販売

【県内全域】

景況減速感と取引ニーズとの攻防展開で推移。

#### ■小売

【東金】

前半は、夏の暑さが続き、秋物の動きがなかった。台風の影響で被害もあり、購買機会の減少が売上を下げてしまった。その中でも、食品関係は健闘。ファッション関連品は、厳しい状況が続いている。

#### ■小売

【野田】

7月から営業開始時間を1時間早めたサマータイムを導入。10月から戻す予定だったが、朝の売上が好調なので、継続することに。

#### ■小売・サービス

【柏】

残暑が厳しいと日中の買物客が極端に少ない。どうしても午前と夕方の方の商売となってしまう。全体としては相変わらず厳しい業種ばかりである。出前を行っている店は、出前は好調との事。

#### ■小売・サービス

【銚子】

特別変化がなく、悪いまま。

#### ■建設揚重

【県内全域】

需要増加の方向。

#### ■害虫防除

【県内全域】

今年度の蜂駆除の依頼件数は、昨年と比較して200件強減少。

#### ■遊覧船

【鴨川】

前年同月比65%。個人より団体が悪く、まだまだ戻らない状態。

#### ■一般廃棄物処理

【千葉】

地デジ化によるテレビの廃棄は大分落ち着いてきた模様。昨年比では景気は悪くないように思う。

#### ■土木建築サービス

【県内全域】

大震災の影響により見通せず。

#### ■ソフトウェア

【県内全域】

大変厳しい状況である。

#### ■建設

【県内全域】

連合会加入組合員の受注額は前月比2,547百万の増加となった。復興事業について、予算の執行が始まったものと思われる、海匝・香取・山武地区で増加した。

#### ■貨物運送

【野田市】

運送に関して、県内では一部放射能汚染の影響が出たが予想よりは小さな影響で済んだようだ。

#### ■輸出入

【県下全域】

震災、原発事故後、対前年比は減少しているが、少しずつ回復基調にある。